

## 【報告】 JICA近畿大学連携ボランティア事業

—ペルー共和国野球振興支援 ボランティア連携に参加して—

経営ビジネス学科

井上弘太 井上直人  
有働卓冬 高石夏輝  
鈴木智大 東山力也  
中村太郎 谷口龍成

### ①はじめに

独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency: JICA) は、日本の政府開発援助 (ODA) を一次元的に行う実施機関として、開発途上国への国際的な支援を行なっている。

JICAは「全ての人が恩恵を受けるダイナミックな開発」という大きなビジョンを掲げて、多様な援助手法のうち最適な手法を用いる事を徹底して、地域別、国別アプローチと課題別アプローチを組み合わせて、開発途上国が抱える課題の課題解決を支援していくことを掲げている。

そのようなJICAを通じて、短期ボランティアの野球隊員としてペルーに二〇一三年から派遣されるようになり、今年で七度目の派遣となった。日本の真反対で南米に位置するペルーはブラジルの隣にある国で太平洋に面している。南米という事もあり、やはりサッカーがペルーで一番人気のスポーツとなっている。野球は日系人には人気のあるスポーツであるが、国全体で見るとまだまだ競技人口が少なく決して人気のあるスポーツとは言えないのが現状である。年々野球人口は増加しているがサッカーの人気を超えるスポーツになるのはまだまだ程遠い状況である。また、野球道具の不足や、練習環境も十分ではないなど野球をする上での問題点も多い。そのような状況であるが、ペルーの野球競技人口の増加と野球技術の向上、また現地人との国際交流などを目的として現地での活動を行なった。

### ②JICAボランティアとは

JICAボランティアのボランティア事業は、青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティアの四種類のボランティア事業の総称であり日本政府のODA (政府開発援助) の一環として一九六五年に青年海外協力隊が発足して以降、独立行政法人国際協力機構が実地する事業である。

この事業は、発展途上国または日系人社会からの要請に基づきそれに見合った技術・知識・経験を持ち、「現地の人々のために活かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣する。

主な目的は、三つある。一つ目は、開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与。二つ目は、異文化社会における相互理解の深化と共生。三つ目は、ボランティア経験の社会還元です。なかでも、青年海外協力隊は事業発足から五〇年以上という長い歴史を持ち、これまでにのべ四万人を超える方々が参加しています。JICAボランティアには技術系、医療系、教育系、農業系、スポーツ系などの職種があり自分の持っている知識、技術、経験などを活かせるのもJICAボランティアの特徴である。

### ③ペルーの歴史

ペルーの文明は南アメリカ最古のもので、近隣国はペルーの領域と帝国から出現し始めたものである。最新の研究では、ペルーにおける最初の文明はおよそ五〇〇年前にカラルから始まったとされている。カラル文明の後、アンデス文明はペルーの様々な地域に拡大し、多くの考古学的遺産や無形遺産を残す文明を生み出した。その後南アメリカにおいて最も重大な文明と言われるインカ帝国が誕生した。インカ帝国はビルカノタ皮渓谷の中腹から高地に定住した帝国であり、五〇〇年以上前に始まった古代文化の頂点を極めていた。

またタワンティクスヨとしても知られておりクスコが起源であり首都であった。領土は現在のペルー・エクアドル全域を含むコロンビア、チリそしてアルゼンチンにまでおよんだといわれている。

ペルーでは、文化は一つであると同時に多岐にわたるもので、ヨーロッパ人が到着する前に何百年と繁栄した文明の伝統と習慣を受け継いでいる。

また異文化との交流による文化融合により、アフリカ文化、アジア文化などのペルーに根付いた文化の影響を受けより一層豊かさを増している。一九〇〇年頃に日本からの移民があり、一九九〇年代に日系人のフジモリ大統領が日系人初の大統領となった。また街の中に寿司やたこ焼きなどの日本食のレストラン等も多く存在している。このように日系社会も根強く残っている。

### ④近畿大学の派遣に至るまでの動向

私たち、短期ボランティア隊員は一二月に東京渋谷区代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターにて四日間の研修を行った。研修には、短期ボランティア派遣隊員約九〇名が参加した。

研修では、朝から夕方まで講義があった。講義内容は大きく分けて三つに分類される。「現地での活動手法」、「健康管理・安全管理」、「社会的多様性理解・活用力」の三つであ

る。これら海外に行ったときに必要になること、ボランティアへの心構えなどを学び、レポートの提出と確認テストを受け、理解できているかを確認した。

講義では、実際の海外の交通状況の写真や実際に海外を体験している人の実体験の話、その場での対応力を身につけるための講義があり、日本とは違う環境での行動の仕方や対策について知ることができた。

またグループワークを通じ、多くの人と意見交換をすることにより、多くの知識を得ることもできた。このような研修を受け、海外で重要なことを明確にすることができ、約一か月の活動を無事に終えることができたと思う。

#### ⑤AERU (アエル)

AERUとは、日系人が創設した総合型運動施設である。施設内には野球場だけではなく、サッカーやフットサル場、テニス場や屋内外のプール、陸上競技場などスポーツを行なううえで日本と大差のない施設を有している。また施設内にはレストランや売店も兼ね備えられており、レストランではそばやカツ丼などの日本食も用意されている。他にも日本語の看板や、日本語を話すことの出来る店員がいるということもあり日本人である我々も困惑することなく充実した生活を送ることが出来た。

今回の派遣ではAERUを中心に野球の指導を行なった。ペルーで選抜された一八歳以下の子供達の指導を主に行い、現地の子供達にも指導した。練習内容はウォーミングアップから始まり、ノック、応用練習、バッティングの流れで行なった。その中で我々近畿大学生は、デモンストレーションを行い、マンツーマンで子供達に指導した。また今年も昨年同様AERU主催の大会に参加した。日本のグラウンドとは異なり木製のマウンドや、整備されていない凹凸のグラウンドでの試合でとても大変だった。

最後にAERUの施設の関係者の方々は、我々近畿大学生を温かく迎えてくださりとても活動しやすい環境だった。改めて心から感謝の意を表したい。



AELU



AELU



AELU

## ⑥CALLLO

CALLLOは、今回私たちが主に活動をしたAELU同様、野球場だけでなく、サッカーグラウンド、バスケットコート、体育館など様々なスポーツをおこなうことのできる総合運動施設である。

CALLLO球場は、AELUの球場と異なり、外野の芝生が整備されていなくてイレギュラーバウンドしてプレーが辛い場面が多くあった。また、AELUと比べて駐車場やトイレなどの設備が整っておらず苦労する場面があり球場付近も危険な場所があった。

今回CALLLO球場は、主に子供達との合同練習や技術指導の活動で使用した。U一八の合同練習では、我々が教えることが少なく想像していた以上にレベルが高い子供たちが多かった。子供達の技術指導では、三日間行い初日は人数も多かったが二日目三日目となると人数がだんだん減っていった。野球のルールもあまりわかっていない初心者の子供も多く技術指導というよりは野球を知ってもらおうという感じであった。試合を行ない子供達は、とても楽しそうにひたむきに取り組んでいた。野球道具の寄贈も行い子供達はとても喜んでくれた。日本とペルーとでは、指導方針の違いを感じたところである。



CALLAO



CALLAO



CALLAO

## ⑦ペンション・カントウータ

私たちが宿泊した施設はホテル・カントウータであった。このホテルは日本人が経営しており、朝食は日本食でもとても美味しかった。夕食はメニューによって変わるが、日本で日本食を食べることができた。

部屋は一人部屋、二人部屋、三人部屋で各部屋にタンスがあり広さも不自由ない広さだった。お風呂とトイレは共同で全てのフロアにあった。洗濯はホテルの従業員が手洗いから干すところまで全てやってくれ、とても感謝している。また、大会が終わったらペンションの経営者がカレーライスをつくってくれ、とても美味しくいただきました。

ホテルにはWiFiが整っており、日本の番組等も観ることができたので一か月間の派遣期間ほとんど不自由なく生活することができた。

## ⑧試合の様子

日本人ペルー移民一二〇周年という節目の年ということもあり、記念大会が開催された。

喜ばしいことに、近畿大学は記念大会に参加することができ、ペルー代表、P・Libre



ABELUの三チームと試合をする機会を得た。

今回の記念大会では、残念なことに三位に終わってしまったが、それ以上に野球を通して現地の方々と国際交流することが出来たことがとても良い経験になった。言葉が通じない中、記念大会ということで、試合が終わればお互いを称えあい野球を通して仲良くなれたことにスポーツの素晴らしさを身をもって感じ、同時に野球が出来ることにも改めて感謝することが出来た。

ペルー代表との試合では、国内から選抜された選手が多く試合では苦戦した。日本人にはない、ペルーの人たちの身体能力の高さに驚かされる場面も多々あった。ただ、近畿大学チームもそう簡単には負ける訳にはいかない為、バントや盗塁といった攻撃で相手を揺さぶったりして、奮闘した。試合後には、お互いにユニホームや帽子などを交換したり、閉会式後には、ちょっとした食事会があり、交流する機会がとて多かつた。今回、移民一二〇周年という記念大会に参加し、交流ができたこと、貴重な体験をたくさん得られたことは、参加した学生にとってプラスになると思う。

⑨まとめ

二〇一二年度から始まったJICAの近畿大学の事業連携は、今回短期ボランティアとしてペルーで七回目の活動を行なった。主な活動内容は、現地の子供達への野球の指導、現地チームとの試合、日本人学校への訪問などです。

今回は主にアエル、カジャオ、チヨリージョス、トルヒーヨで指導を行った。小学校低学年の子供達も数多く見られたので、通常の練習メニューのほかに、ボールになれるためのゲームや遊び感覚のメニューを取り入れ練習を行なった。非常に短い期間の練習であったが、少ない練習時間を大切に、確実に上達していく子供達が多くみられた。

また、今年も昨年同様リマ日本人学校へ訪問することが出来た。リマ日本人学校では、野球指導を行いました。同行の生徒は野球未経験者が多く、みんな練習内容を考え実行することが出来た。生徒が楽しそうにやってくれて非常にやりがいがあった。

今回ボランティアを通して、ペルーで様々な活動をさせていただく中で、たくさんの方との出会いがあり、とても貴重な体験をした。こうした活動で培った経験を日本に帰ってきた際に、知識や、経験を多くの方々へ還元することも大切な活動の一つである。またボランティア活動の精神やすばらしさを伝えられればと思う。

今回、私たちの派遣に際しまして、ご指導、ご支援していただいた全ての方々にお礼申し上げます。有難うございました。